

第3次袋井市総合計画 基本構想(最終案)について

- 本資料は、基本構想(素案)に対して、総合計画審議会の意見やパブリックコメントの市民意見などを踏まえ、基本構想(最終案)として再整理したものです。
- 本日の基本構想(最終案)に関する総合計画審議会の結果を答申書としてまとめ、別途、正副会長から市長に提出する予定です。
- 総合計画審議会から答申を受けた後は、市が基本構想を作成し、2月市議会の議決を経て策定する予定です。

【今後の予定】

- ▶ 2月5日(水) ————— 正副会長から市長に対して、基本構想 答申書を提出
- ▶ 2月17日(月)～ ———— 袋井市議会定例会(2月)での議決を経て、基本構想を策定

1.第3次総合計画 基本構想(素案)に対するご意見

- 1.総合計画審議会での意見
- 2.パブリックコメントの結果(途中経過)
- 3.庁内パブリックコメントの結果

2.第3次総合計画 基本構想(最終案)について

- 1.基本構想全体像、素案からの変化
- 2.まちの将来像
- 3.「にぎわい」「ずっと続く」について
- 4.まちづくりの基本目標

3.基本構想を踏まえた各政策分野の考え方

基本構想(素案)に対する総合計画審議会での意見

- 第5回総合計画審議会において、委員からいただいた主要な意見を整理します(議事概要については次頁参照)。

まちの将来像に対する主な指摘と市の考え方

- ・ 市内のどこが「にぎわい」の場所なのか
- ・ 若い世代が「にぎわい」を実感しているか

「にぎわい」を感じる場所や場面は人によって様々で、一概に言えるものではありませんが、「まちの将来像」では、「くらし(人が輝くこと)」や「しごと(経済的なゆたかさ)」が良好な状態であり、「誇り(社会的な活気の表れ)」を持って、生き生きと発展するまちの姿を「にぎわい」という言葉で表現しています。このような理念を基に、様々な「にぎわい」の創出に取り組んでまいります。

⇒[スライド15頁にて整理](#)

- ・ 現在の「にぎわい」を継続させていくイメージを受ける

今ある(市民が実感している)「にぎわい」を維持することも重要ですが、新しく未来で「にぎわい」を生み出してくれるモノやコトに投資することで、まちの「にぎわい」が綿々と続くことも重要です。「まちの将来像」の「ずっと続く」という言葉には、こうした新たな「にぎわい」を作り出すための挑戦的な姿勢も込められています。

⇒[スライド16頁にて整理](#)

- ・ インパクトのある表現で袋井市の魅力を強調すべきではないか

「にぎわい」という言葉は、「笑顔」や「魅力」、「繋がり」などを包含し、これまでの議論を踏まえた袋井市ならではの言葉であると認識しています。

他方で、インパクトのある表現で袋井市の独自性を強調することは、より本市の魅力を伝え、共感を得るために重要だと考えていますので、「まちの将来像」や「まちづくりの基本目標」とは別にキャッチフレーズを作成するなど、効果的なプロモーションの方法を検討いたします。

⇒[今後検討](#)

留意すべきこと

- 「にぎわい」を生み出すための具体的な計画や場の設計、未来への投資が重要となる
- デジタル化を徹底し、人間は人との繋がりの部分で付加価値を高め、地域コミュニティの持続と多様性の尊重に注力すべき
- 若者が育つ・集まるような魅力的な場を作り、人との繋がりや地域活動を持続していくための仕組みづくりが重要
- 数値目標を設定し、総合計画の進行状況を把握することが重要
- 「にぎわい」を作るには、女性が働きやすく活躍できるまちでなければならない
- 計画の推進段階では、市民と取組の進捗状況を共有し、相互の理解を得ることが重要

第3次総合計画 基本構想(素案)について [まとめ]

【開催概要】

第5回袋井市総合計画審議会を、以下の通り開催しました。
第5回の意見交換では、第3次総合計画基本構想(素案)について、各委員からご意見を頂きました。

日時	令和6年11月11日(月)18時30分～20時30分
場所	袋井新産業会館キラット あきはホール
内容	1 開会
	2 会長あいさつ
	3 議事
	(1) 第3次総合計画基本構想(素案)について
	(2) 意見交換
4 事務連絡	
5 閉会	

【意見交換での主な意見】

- 計画づくりには抽象化と具体化が必要。基本構想に求められる抽象化の整理については、概ね整ってきているので、今後、「にぎわい」を生み出すための具体的な計画や場の設計、未来への投資が重要となる。
- 基本的な考え方や方向感は、よくまとめられている。これからの時代は、デジタル化を徹底し、人間は人との繋がりの部分で付加価値を高め、地域コミュニティの持続と多様性の尊重に注力するべき。
- これまで議論した過程の整理を踏まえ、重要なキーワードは拾えていると思う。若者が育つ・集まるような魅力的な場を作り、人との繋がりがや地域活動を持続していくための仕組みづくりが重要だと考える。
- 今後、具体的な施策に落とし込んでいく際は、数値目標を設定し、総合計画の進行状況を把握することが重要となる。まちの将来像の表現方法については、イラスト以外の手段を含め、より良い方法がないか再度検討すべき。
- 資料は分かりやすくまとめられているが、若い世代が「にぎわい」を実感しているのかなど、このまちのイメージとのギャップや人との繋がりに対する負担を感じる方への配慮など、全ての人に響くビジョンや具体策があると良い。
- 人口減少を緩和するため、今このまちで暮らしている住民や移住してきた方が楽しく過ごせ、また一度、このまちを出た学生や外国人が「袋井市で住みたい」と思っていたりするようなまちの将来像が表現できると良い。
- 「にぎわい」という言葉は、温かみがあって受け取りやすい言葉だと捉えている。人口減少や財政難の中、より良いまちを実現するためには、市民の自主的な取り組みなど、協働や共創の考え方がこれまで以上に重要になる。
- 「にぎわい」を作るには、女性が働きやすく活躍できるまちでなければならないと考える。また、計画の推進段階では、市民と取組の進捗状況を共有し、相互の理解を得ることが重要となる。
- 普段の生活の中で、市内のどこが「にぎわい」の場所かと言われると疑問。これから「にぎわい」を生み出していくのであれば理解できるが、現在の「にぎわい」を継続させていくイメージを受けるため、言葉の使い方を再考した方が良い。
- 事務局案のまちの将来像は、他の市町でも使えてしまう。インパクトのある表現で袋井市の魅力を強調し、さすが袋井と言われるようなものが出てくると、もっと袋井を好きになると考える。
- 「にぎわい」は世代を超えた交流・イベントなど、人との繋がりが自然に生まれるものと捉えている。
- 健康寿命がトップレベルであることも袋井市の強みであり、こうした特長を考慮すべきと考える。適切な言葉を用いて、スポーツや交流など楽しいまちであることが伝わってくる基本目標、街の将来像となると良い。
- これまでの議論から、繋がりがまちの活性化や市民生活の満足度に重要であると感じた。人との繋がりがや交流を想起させる言葉として、「にぎわい」という言葉は良いと思う。
- 若者は、人との繋がりを求めている。挑戦やにぎわいがある地域に魅力を感じるので、まちの将来像に「にぎわい」が入っていることは若者にとって共感が持てる。
- 人との繋がりがないと、経済的・精神的なまちの繁栄が難しいと思うと、「にぎわい」という言葉は、これからなりたい袋井市を集約した良い言葉だと思う。「にぎわい」のなかで、人と人が交流しながら、繁栄する袋井市であって欲しい。
- 「にぎわい」に関連する言葉として、「笑顔」、「魅力」、「繋がり」、「挑戦」とあるが、基本目標の中でも「挑戦」というキーワードが入ると良い。挑戦という言葉には、失敗しても良いというコミュニティの寛容さがあると思う。
- 特色があり、キャッチーな表現も大事であるが、市民と目標を共有することが重要であり、どのように「にぎわい」という言葉を定義づけるのかなど、本質的な議論を深めることで、袋井市ならではの言葉になると考える。

基本構想(素案)に対するパブリックコメント結果【1/4】

● 基本構想(素案)に対し、市民等からいただいた意見とそれに対する市の考え方をお示します。

- 意見募集期間 : 令和6年11月25日から12月25日まで
- 意見の提出状況 : 3人 8件

該当箇所	ご意見	市の考え方
方向性 ・ 考え方	<p>総合計画審議会 第5回では、「にぎわい ずっと続くまち」を支える考え方の1つである「繋がりによる地域コミュニティの強化」の文脈で、コミュニティセンターを地域のハブに…との話題提起があったかと思えます。</p> <p>袋井市では2018年に公民館(社会教育の拠点)からコミュニティセンター(地域づくりの拠点)に移行しており、コミュニティセンターが地域のハブとなって、地域づくり・街づくり、コミュニティビジネスも含めたコミュニティづくりの拠点に移行しており、その施策が真価を発揮していくことが求められるものと考えます。</p> <p>現実には、市内のコミセンには利用者に他地区の人が混ざるのを嫌がり、職員さんが利用者代表に苦言を呈する事例も未だにあると聞いていますが、“つながり”、“にぎわい”は必ずしも各コミセンの管轄区域や市域でクローズさせるべきものではなく、コミセンを中と外を繋ぐ場や、コミュニティビジネスの拠点としてもより一層活用していく発想を、館長さんや職員さんも共有していなければ実効は上がりません。そしてまた、地域づくりリーダー、コミュニティビジネスリーダー的な人材を育成していく“人づくり”の取組みも重要です。</p>	<p>本市では、市民と行政との協働によるまちづくりを一層進め、地域住民による「地域づくり・まちづくり」を進める体制づくりを目指すため、2018年に公民館からコミュニティセンターへ移行しました。</p> <p>ご指摘の通り、コミュニティセンターが様々なコミュニティをつなぐ「まちづくりの活動拠点」として真価を発揮するためには、コミュニティセンター職員はもとより地域の皆様にその役割を十分に理解していただくことが重要だと考えます。また、コミュニティビジネスなどの手法も含めた地域づくりを担う人材育成にも力を入れることも必要であると認識しています。</p> <p>いただいたご意見を参考に、コミュニティセンターが地域の「にぎわい」を支える場所として機能するよう、検討してまいります。</p>
	<p>総合計画の素案にある、「にぎわい ずっと続くまち」を支えるサブの柱の1つの「挑戦」の中身について、老朽化するインフラ、人口減少、激甚化する災害などの課題への対処といった事項が書かれており、それらはいずれも深刻で大切なことではあるけれども、守りに徹した発想に終始しているとの印象を受けました。他の柱である「魅力」「笑顔」といったところを含めて概観してみても、本来「挑戦」が意味する攻めの“チャレンジ”を思わせる内容には欠けているように見受けられますが、地域が存続し続けるには、従来の路線を守るだけでなく“変革”への「挑戦」も欠かせないものと考えます。</p> <p>現在、市が近隣の他市に例を見ないほど注力して支援策を充実させている民間での創業/スタートアップや、アーバンスポーツ、その他市が推進している新しいプロジェクト(同笠海岸の「海のにぎわい創出プロジェクト」、新幹線南の「袋井セントラルパーク構想」、袋井市子ども交流館「あそびの杜」構想)などへの言及が素案資料にも委員の方々の提言にもありませんでしたが、「挑戦」にはそういった前向きな攻めの“チャレンジ”を織込み、そうした前向きな取組み姿勢とその成果も通して“新たな「魅力」(価値)を地域に生み出す”と共に、「笑顔」があふれる「にぎわい」が続くまちを実現していきたいものと考えます。</p>	<p>ご指摘の通り、地域が存続し続けるためには、まちを持続させるための守りの施策だけでなく、新しい試みや変革への「挑戦」が不可欠です。</p> <p>現在、市が注力している産業イノベーションやアーバンスポーツ施設整備にも繋がる「海のにぎわい創出プロジェクト」や「袋井セントラルパーク構想」、子育て世帯などの特に若い世代が集う拠点となる「あそびの杜」など、前向きなプロジェクトを進めておりますことから、これらの「挑戦」の姿勢を、より具体的に反映できるよう努めます。</p> <p>引き続き、新たな取組みを通じて、地域に「魅力」を生み出し、「笑顔」があふれる「にぎわい」が続くまちの実現を目指し、さらなる発展を追求してまいります。</p>

基本構想(素案)に対するパブリックコメント結果【2/4】

● 基本構想(素案)に対し、市民等からいただいた意見とそれに対する市の考え方をお示します。

- 意見募集期間 : 令和6年11月25日から12月25日まで
- 意見の提出状況 : 3人 8件

該当箇所	ご意見	市の考え方
まちの将来像	<p>東名袋井インターと新東名森町インターの間に道の駅の建設を検討できませんか。 観光センターも老朽化しているため、防災拠点の一つとしても役に立つと思います。温泉施設や公園なども併設されるとイベント開催しやすくなるのではないのでしょうか。宜しくお願いします。</p> <p>総合計画審議会 第5回では、総合計画のコンセプトのイラスト(鹿児島市の総合計画の事例のような街の俯瞰図のようなイラスト)を制作する予定の是非についても賛否の意見が交わされましたが、篠田久美委員が提言していたマインクラフトのコンテストにして子どもたちから募るというアイデアは良案と感じました。 実際のところ、マインクラフトを教育的に活用しようとして先行的に活動してきた有識者の市民活動者によると、指導者のリソースや保護者のリテラシーの不足などを背景に、なかなか教育的な形での普及・浸透は簡単ではないとのこと活動半ばで見切りをつけざるを得なかったということ简单ではないものとも受け止められますが、マインクラフトに限らず、一般的な形で描画するイラストやその他ミクストメディア的な表現形態も含めて間口を広げた形で市民・学生・子どもたちからコンテストとして募集することにして、同時に広く市民・若者・子どもたちに自分たちの街の将来を考えることについて意識を高めてもらうきっかけとして活用できればよろしいかと考えます。</p>	<p>ご提案いただいた道の駅をはじめ、まちに「にぎわい」をもたらすための拠点整備は、次期総合計画基本構想の「まちの将来像」を実現する上でも、非常に有効な手段の一つと考えております。 森町袋井インター通り線の整備については、交通の利便性に伴う地域産業・観光振興の活性化の期待されることから、引き続き地域の皆様のご意見を伺いながら、より良いまちづくりに向けた検討を行ってまいります。</p> <p>総合計画のコンセプトを市民の皆さんと楽しく、わかりやすく共有していくために、マインクラフトを活用するアイデアは、子どもたちの創造力を育むことにも寄与する素晴らしい可能性があると感じています。 ご提案のマインクラフトに限らず、イラストやロゴなどを市民・学生・子どもたちから広く募集することは、これからのまちづくりを担う世代が、自分たちの街の将来を考える良いきっかけになると考えます。 いただいたご意見を参考に、計画策定とは別に、より多くの市民や若者が将来のまちづくりに対して興味を持ち、積極的に参加する契機となるような企画やプロモーションを検討してまいります。</p>
その他	<p>総合計画審議会は市民も事前申込みすれば傍聴ができるものの、第5回で私が知人を誘い合わせて傍聴したのが、一連の審議会でも最初のケースとのことでした。 第2回～第4回は委員の方々のテーブルトーク方式のワークショップ形式ということで、傍聴に適するものではなかったと致し方ないところもあるかとは思いますが、総合計画は2026年から向こう10年の市のあり方のグランドデザインを描くものであるため、本来、広く市民に関心を寄せてもらいたいところではないかと思えます。</p>	<p>総合計画審議会に関心を寄せていただき、また、審議회를傍聴いただき感謝いたします。 いただいたご意見の通り、現在審議を進めている第3次袋井市総合計画は、2026年からの10年間の方向性を示す市の最上位計画であり、広く市民の皆様に関心を寄せていただき、皆様とともに計画を作っていくことが重要だと考えます。 今後も積極的に情報発信を行い、市民の皆様に関心を寄せていただけるよう努めます。</p>

基本構想(素案)に対するパブリックコメント結果【3/4】

● 基本構想(素案)に対し、市民等からいただいた意見とそれに対する市の考え方をお示します。

- 意見募集期間 : 令和6年11月25日から12月25日まで
- 意見の提出状況 : 3人 8件

該当箇所	ご意見	市の考え方
	<p>総合計画審議会 第5回を傍聴しました。第3次総合計画の素案を基に審議を行う回でしたが、20名の委員の方々は事前に素案の資料を渡されていたわけではなく、審議会の当日の場で初見で、その場でのごとく見で意見を求められた形だったと伺いました。たいそうな資料でしたので、市の担当課の方々の準備は大変だったかと思いますが、委員の方々も審議会のその場で初見で意見を求められても深く本質を突くような指摘は出てきにくい、前に発言した委員の方たちが出した特定の話題に引きずられがちとなった印象で、このような形で果たして審議会がまともに機能するのか、素人目に見ても懸念を感じました。</p> <p>実際、「にぎわい ずっと続くまち」というコンセプトの言葉の是非を巡る水かけ論に終始した印象でした(それ自体は大事なことではあると思いますが)。</p> <p>その場で初見の印象を問う趣旨だというならばそれでも良いのでしょうか、委員の方々それぞれにお役目を委嘱するにあたって期待する各方面の有識者としての専門性を遺憾なく発揮していただくためにも、審議の目的となる重要資料については事前にお渡ししてお目通しいただくのがよろしいのではないかと感じました。</p>	<p>総合計画審議会においては、審議に必要な重要資料を概ね1週間前にメールで委員の皆様へ送付しており、ご希望の方には紙でも送付しています。今後も委員の皆様に分かりやすい情報を提供することが重要だと考えておりますので、いただいたご意見を参考に、充実した審議につながるよう、さらなる改善に努めてまいります。</p>
その他	<p>総合計画審議会 第5回では、委員の方のコメントの中で“袋井らしさは何か？”という問いもあったかと思いますが、創業/スタートアップ支援への注力や、アーバンスポーツの聖地化などは、その答えの1つになるものと考えます。</p> <p>スポーツに関しては、磐田における卓球、掛川におけるスノボの三木つばき選手のようなトップアスリートの花形選手・花形種目を輝かせることで市民の気運が高まって啓発される面もありますし、その一方で、スポーツ施設などの環境整備やスポーツデーのようなイベントを通して裾野を広げるアプローチもあります。</p> <p>こと袋井市においては、公のスポーツ施設だけでも、さわやかアリーナやエコパなどとも充実していて、更に、エコパやお隣磐田市を拠点とするプロスポーツチームも所在するなど比較的恵まれています。新たな施設整備の方向性として、同笠海岸の「海のにぎわい創出プロジェクト」、新幹線南の「袋井セントラルパーク構想」といった構想計画に見られるように、周辺市には例を見ないアーバンスポーツの拠点を打ち立てようとしている点は1つの「袋井らしさ」に成長・定着していく可能性があると考えられます。そういったスポーツ振興としての側面があるのと同時に、袋井市としては「日本一健康文化都市」を掲げているので、サステナブルな地域社会の実現を図るうえで心身の健康増進/ウェルネスとリンクさせられる側面も大いにあるというのが1つの特色として打ち出せる点かと思えます。</p>	<p>「袋井らしさ」についてご提案いただき感謝いたします。創業・スタートアップ支援への注力やアーバンスポーツの聖地化に向けた取組は、確かに袋井市の一つの特色として成長しうるものだと考えます。</p> <p>特に、ご意見をいただいたスポーツ分野に関しては、これまで取り組んできた「日本一健康文化都市」としての健康づくりはもちろん、アーバンスポーツ施設の整備やプロスポーツチームとの交流、スポーツツーリズムなど、様々な形でスポーツを楽しみながら交流の起点としていくことで、若い世代にとっても魅力にあふれ、市民と訪問者双方が楽しめるまちへと繋がること期待することから、さらなる発展を目指して取組を検討いたします。</p>

基本構想(素案)に対するパブリックコメント結果【4/4】

● 基本構想(素案)に対し、市民等からいただいた意見とそれに対する市の考え方をお示します。

- 意見募集期間 : 令和6年11月25日から12月25日まで
- 意見の提出状況 : 3人 8件

該当箇所	ご意見	市の考え方
その他	<p>袋井市は長らく中東遠の中軸都市を目指してきましたが、最近では近隣の市に発展面で遅れを取っている現状があります。過去に策定した豊沢愛野地区の基本構想は成功し、静岡理科大学や小笠山総合運動公園で国民体育大会などを開催するまでに至りました。一方で、宇刈村松地区と三川地区の基本構想は進んでおりません。現在、周辺のインフラ整備が進み、この2地区を開発する絶好のチャンスが巡って来ています。そのため、改めて宇刈村松地区と三川地区の土地利用基本構想を策定し、袋井市全体の発展の指針と都市のビジョンを明確にすることが求められると考えます。 (注記:本ご意見は、長文であったため事務局にて要約させていただいております。)</p>	<p>ご提案のような土地利用の方向性につきましては、人口減少社会への適応しつつ、本市が持続的に発展し続けていけるよう、現在、総合計画と並行して改定を進めております都市計画マスタープランの地域別構想などの策定の中で検討してまいりたいと存じます。</p>

基本構想(素案)に対する庁内パブリックコメント結果【1/2】

● 基本構想(素案)に対し、市職員からいただいた意見とそれに対する事務局の考え方をお示します。

- 意見募集期間 : 令和6年12月2日から12月12日まで
- 意見の提出状況 : 5人 7件

該当箇所	ご意見	市の考え方
現状把握	<p>【2.急進展するデジタル社会(好機)】 脅威としての側面としてデジタルデバイドに触れていますが、データ漏洩や巧妙なサイバー犯罪などの増加や偽情報の拡散、システム障害やサーバーダウンなど技術的障害、さらにはAIやビッグデータの活用が進む中で、アルゴリズムによる差別や偏見など倫理的な問題もあることを含みを持たせておくべきではないでしょうか。</p>	<p>デジタル社会が抱える脅威は、デジタルデバイドの他にも、ご指摘いただいた様々な要素が存在すると認識しております。 日常生活の様々な場面でデジタル化が進行する中、ご指摘いただいた内容を含め、様々なリスクについても考慮しながら、デジタル社会に対応したまちづくりを進めていく必要があると考えます。</p>
	<p>【4.脱炭素社会への対応とエネルギー安定供給の必要性(好機)】 デジタル化、特にここ10年間でAIの利用は急速に高まる一方、データセンターの増設により、電力の確保が課題となっています。 デジタルに依存する社会は電力なしには成立しないため、エネルギーの安定供給について考える好機となると思います。</p>	<p>我が国の電力需要の見通しは、生成AIなど大量処理を伴う技術の浸透や半導体工場、データセンターなど大規模需要の新設によって、増加するものと認識しています。デジタル社会が円滑に機能するためには、エネルギーの安定供給が不可欠であり、こうしたことも念頭に、地方公共団体で実行可能なエネルギー政策について検討していく必要があると考えます。</p>
	<p>【6.産業構造の転換(好機)】 以前ガソリン車がEVへ転換するという潮流があった際、当市の主力産業である輸送機産業は環境の変化に対応することが難しかったと受け止めている。また、現在もカーボンニュートラルに対する対応についても同様と考える。当市の場合、産業構造の転換に柔軟に対応できる事業者ばかりではないことを考慮すると、「産業構造の転換」は「脅威」ではないのか。</p>	<p>産業構造の転換は、確かに「脅威」として認識される側面もありますが、一方で「好機」として捉え、適切な支援と戦略的な対応を行うことで、地域の産業が持続的に発展し、まちの「稼ぐ力」を高めることが可能となると考えます。 産業構造の転換による好機と脅威の両面の視点を忘れずに、本市の実態に即した産業政策に取り組む必要があると考えます。</p>
	<p>袋井市の強みとして「外国人に選ばれるまち(人、仕事、地形)」とあるが、外国人市民の移動トレンドは、あくまで就労を中心に、近隣市町全体を生活圏域として捉えた中で居住し、その居住サイクルも5年未満が半数以上であり、強みと言えるほど「選んで」住んでいるわけではない。 むしろ、就労目的の働き世代の若者層(生産年齢人口)が多く入ってくることは強みである。(人口ビジョン推計:2060年には外国人の生産年齢人口は全体の2割弱まで増加見込) 一方、「就労資格」であるため在留期間に制約があり、「市民」として定住・永住につながりにくいことは弱みであると考え。外国人をまちづくりの担い手につなげるためには、高度人材としての育成や受入環境の整備が必要である。</p>	<p>外国人市民の増加は、まちに若い労働力をもたらし、地域や経済を支える一因となり得ることから、今後、人口減少が加速する中、外国人に選ばれ、定住に繋げていくことが、まちの活力を持続する上で重要であると認識しています。 このため、次期総合計画の中では、ご指摘いただいた内容を踏まえて、外国人市民にとっても働きやすく暮らしやすいまちを目指すとともに、外国人もまちづくりの担い手として活躍できるような環境整備に取り組む必要があると考えます。</p>

基本構想(素案)に対する庁内パブリックコメント結果【2/2】

● 基本構想(素案)に対し、市職員からいただいた意見とそれに対する事務局の考え方をお示します。

- 意見募集期間 : 令和6年12月2日から12月12日まで
- 意見の提出状況 : 5人 7件

該当箇所	ご意見	市の考え方
方向性 ・ 考え方	<p>【これからのまちづくりの考え方-持続可能で住みやすいまちづくり】 「人口減少問題に対応するために外国人の流入と定着を促進……」とあるが、外国人市民の多くは就労目的で借金して来日しており、彼らが地域に定着するためには安定した雇用環境があることが絶対条件である。 現状は、西部地域の産業構造から製造業中心に派遣等の非正規雇用で就労する外国人が中心で、「安定した雇用」とは言い難い。また、地域産業の多くを占める中小企業の事業者は外国人採用について消極的な実状がある。(R6事業所における外国人受入状況調査結果:回答617事業所中469社(76%)が外国人採用予定なし) 人口減少トレンド、東京一極集中の流れが変わらない中において、既存の産業基盤を維持するためには外国人材の活用も考えていかないと、いよいよ担い手不足で持続化できなくなることが懸念される。 足元の多文化共生施策はもとより、産業政策の視点でも今後の外国人雇用について考えていく必要があると考える。</p>	<p>外国人市民が地域に定着するためには、安定した雇用環境が不可欠であり、現状、非正規雇用が主流となっていることは今後の課題であると受け止めています。 次期総合計画の中では、外国人労働者が、地域経済の重要な担い手としてこのまちに根付くことで、まちの発展に繋がるように、多文化共生施策の推進に加え、産業政策の視点からも取組を検討する必要があると考えます。</p>
まちの 将来像	<p>他市にはない袋井市ならではのものが見えず、記憶に残りにくい。 選んでもらうためには他市との差別化、独自性が必要と感じる。</p>	<p>「にぎわい」という言葉は一般的ですが、これまでの様々な議論を踏まえ、本市ならではの言葉としての想いが込められていると認識しています。 他方で、独自性をより鮮明に打ち出す必要性についても十分に理解していますので、「にぎわい」を軸に、本市の特徴や魅力を強調するキャッチフレーズを別途検討するなど、次期総合計画に共感いただけるように努めてまいります。</p>
まちづくり の基本目標	<p>【基本目標③ 繋がりを実感できる安心・安全なまちの実現】 若者の社会貢献意欲は高まってきており、その実現のためのつながりづくりとして、これまでの地縁をベースにした市民活動から、地域ではなくテーマごとのゆるやかなつながりへのシフト、それを仕掛ける人の活用が重要である。 「まちの将来像」にはそのニュアンスがありとてもよいが、基本目標③においては、従来の地域コミュニティの意識、それに防災等に限定された地域づくりのイメージしか伝わってこない。将来像をイメージできる表現へ工夫が必要ではないか。 また、「地域と行政の繋がり」とあるが、そもそも一体のものであり、表記に違和感がある。</p>	<p>若者の市民活動が、地縁によるものから、それぞれの興味に応じた繋がりにシフトしていることは、非常に重要な指摘であると考えます。 原案では従来の地域コミュニティや防災、防災・減災に焦点が当たっており、テーマごとの多種多様な繋がりの重要性が十分に表現されていないため、地域に縛られない、オンライン・オフライン含めた柔軟なコミュニティ形成をよりイメージできるような表現を検討いたします。 また、「地域と行政の繋がり」についても、地域と行政が一体のものであるという視点から、より適切な表現方法を検討いたします。</p>

1. 第3次総合計画 基本構想(素案)に対するご意見

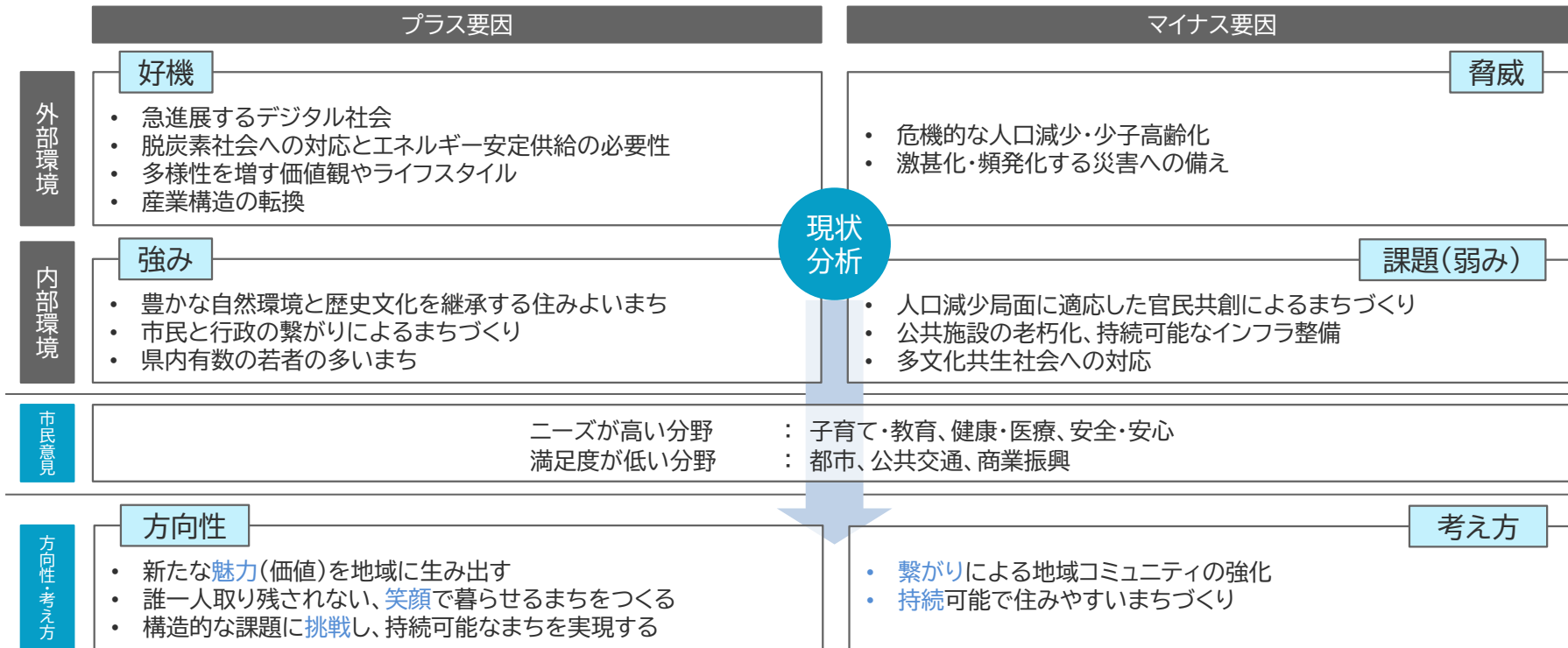
1. 総合計画審議会での意見
2. パブリックコメントの結果 (途中経過)
3. 庁内パブリックコメントの結果

2. 第3次総合計画 基本構想(最終案)について

1. 基本構想全体像、素案からの変化
2. まちの将来像
3. 「にぎわい」「ずっと続く」について
4. まちづくりの基本目標

3. 基本構想を踏まえた各政策分野の考え方

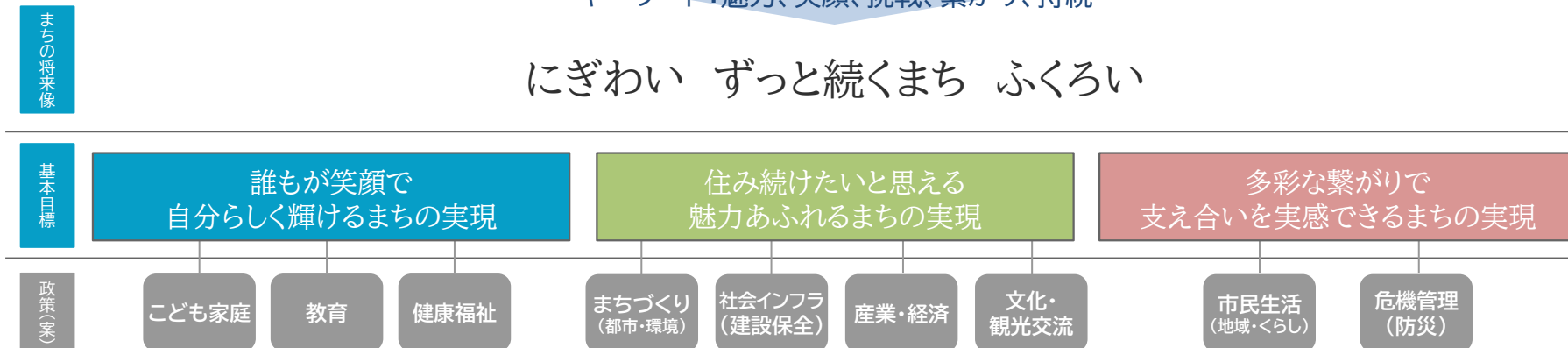
第3次袋井市総合計画基本構想(最終案) 全体像



現状分析

キーワード: 魅力、笑顔、挑戦、繋がり、持続

にぎわい ずっと続くまち ふくろい

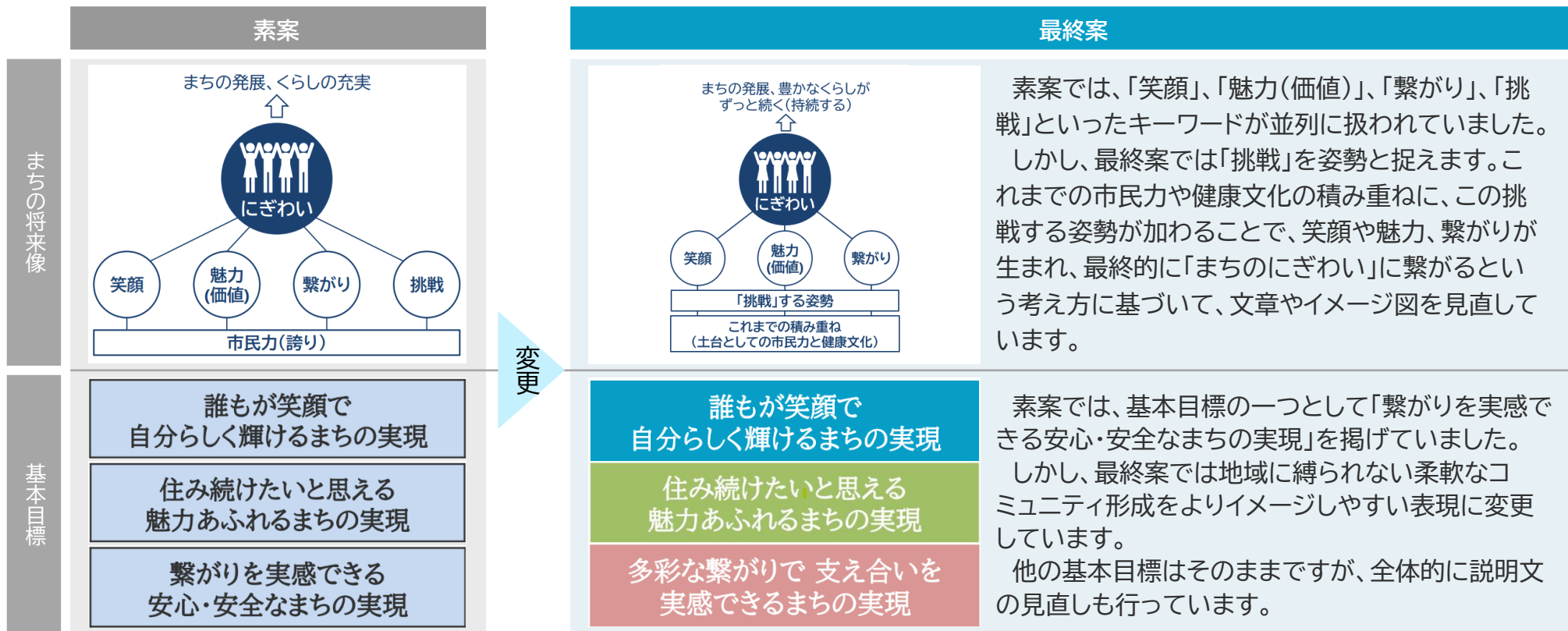


基本構想

素案から最終案にかけての変化について

● 第3次袋井市総合計画基本構想について、「素案」から「最終案」にかけて変更や追加をした内容をお示しします。

■変更概要



素案では、「笑顔」、「魅力(価値)」、「繋がり」、「挑戦」といったキーワードが並列に扱われていました。しかし、最終案では「挑戦」を姿勢と捉えます。これまでの市民力や健康文化の積み重ねに、この挑戦する姿勢が加わることで、笑顔や魅力、繋がりが生まれ、最終的に「まちのにぎわい」に繋がるという考え方に基づいて、文章やイメージ図を見直しています。

素案では、基本目標の一つとして「繋がりを実感できる安心・安全なまちの実現」を掲げていました。しかし、最終案では地域に縛られない柔軟なコミュニティ形成をよりイメージしやすい表現に変更しています。他の基本目標はそのままですが、全体的に説明文の見直しも行っています。

■追加要素

追加要素①

スライド15頁

⇒「にぎわい」の考え方についての整理

追加要素②

スライド16頁

⇒にぎわいが「ずっと続く」ことの意味

追加要素③

スライド17頁

⇒「日本一健康文化都市」の3つの健康観を踏まえた、「まちの将来像」と「まちづくりの基本目標」の関係性

- 目指す姿を明らかにし、まちづくりを進める上で市民と共有する「まちの将来像」を定めます。

にぎわい ずっと続くまち ふくろい

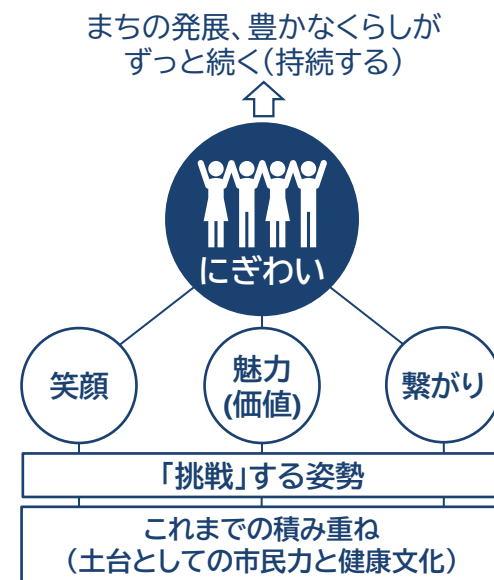
「笑顔」が溢れる場面には活気があり、「にぎわい」を感じるものです。
「魅力」的な場には、自ずと人々が集まり、「にぎわい」が生まれます。
人々が「繋がり」を持つことでコミュニケーションが増え、新たな発想が
「にぎわい」をもたらします。

「にぎわい」は、
まちの経済的な活性化や社会的な交流、文化の発展など、
様々な面で重要であり、市民一人ひとりにとっても生活の彩りや
人との出会い、地域への愛着を与えます。

本市はこれまで、市民一人ひとりがこの地域に誇りを持ち、
お互い協力し合う市民力によって、未来につながる豊かなまちを築いてきました。

今後到来する人口減少などの困難な局面において、本市に関わるあらゆる人が、
「挑戦」する姿勢を原動力に、個々の特性を活かし、まちづくりに主体的に取り組むことで、

まちの「にぎわい」がずっと続く こと、そして、
にぎわうことで、このまちがずっと続く ことを目指して、まちの将来像を掲げます。



「にぎわい」について

- まちの将来像における「にぎわい」の考え方について整理します。

「にぎわい」の意味

にぎわい(賑わい)……………にぎわうこと。

にぎわう(賑わう)……………①富み栄える。ゆたかになる。②にぎやかになる。多くの人が集まり、**活気にあふれる**。(出典:広辞苑 第七版)

「にぎわう」の語源

にぎわう(賑わう)……………①ニギ(和)を活用したもの。②ニキアフ(和合)の義。(出典:日本語源大辞典 初版)

にき・にぎ(和)……………くわしい、**柔らかな**、こまかい、**穏やか**などの意をそえる。(出典:日本国語大辞典 第二版)

あう・あふ(合)……………物と物とが**一つに重なる**。また、物と物とが**つながり合う**。(出典:日本国語大辞典 第二版)

「穏やか」な状態が
「繋がり、一つになる」
様子を表現した言葉

まちの将来像としての「にぎわい」

「にぎわい」という言葉は、一般的には都市や産業などを想起します。

まちづくり全体としては、

こうした経済的な「にぎわい(富み栄えること)」の他にも、

このまちで活躍し、様々な役割を担っているコミュニティや市民活動などの社会的な「にぎわい(活気にあふれること)」も、重要な要素です。

また、まちの「にぎわい」は、本市で暮らす(活動する)一人ひとりが、

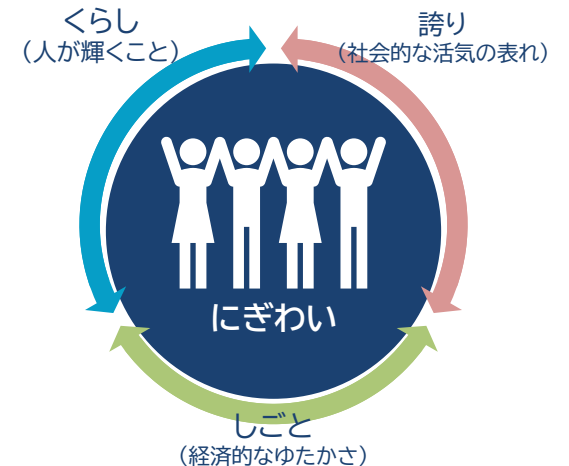
自分らしく輝き、理想の暮らしを実現することで、結果的に生み出されます。

第3次袋井市総合計画では、このような「**暮らし(人が輝くこと)**」や

「**しごと(経済的なゆたかさ)**」が良好な状態であり、

「**誇り(社会的な活気の表れ)**」を持って、生き生きと発展するまちの姿を

「にぎわい」という言葉で表現しています。



にぎわいが「ずっと続く」ことについて

- まちの将来像における「にぎわい」が「ずっと続く」ということの意味を整理します。

「ずっと続く」という言葉は、**途切れることなく続く様子**を表しており、今ある「にぎわい」を維持するだけでなく、過去の継承や未来への投資も含めた様々な「にぎわい」を創出していくことへの意気込みが込められています。

過去

古き良き「にぎわい」を大切に、
時代の変化に即した形で継承すること

(例)

- **歴史的建造物等の保全・活用:**
本市が東海道五十三次の宿場町として栄えた歴史や遠州三山をはじめとする文化遺産を守ることに加え、観光資源として活用することで、新たな活気を生み出すとともに、多くの人々にその価値を伝える。
- **伝統文化の継承:**
地域の歴史や文化を象徴し、人々の絆を深めるとともに、季節の風物詩として役割を果たしてきた伝統的なお祭り・イベント・文化など、地域資源として大切に守り育てていくため、未来を見据えた新たな発想と融合させて、次の世代に引き継いでいく。

現在

今ある「にぎわい」を維持し、
持続可能な形で発展させること

(例)

- **地域経済の好循環:**
地元企業や商店、農業従事者等を支援し、域内消費の活性化させることで、今ある地域の「稼ぐチカラ」を持続させる。
- **人口減少を踏まえた都市整備:**
都市密度の低下やインフラの老朽化等に対し、限られた財源で対応していくため、将来を見据えた効果的・効率的な整備を行う。
- **市民が活躍するための環境整備:**
担い手不足などの課題を抱える地域コミュニティやNPO等が、主体的にまちづくりに取り組むための支援・環境整備を行う。

未来

将来の「にぎわい」へ投資し、次の世代が
豊かに暮らせる基盤を整えること

(例)

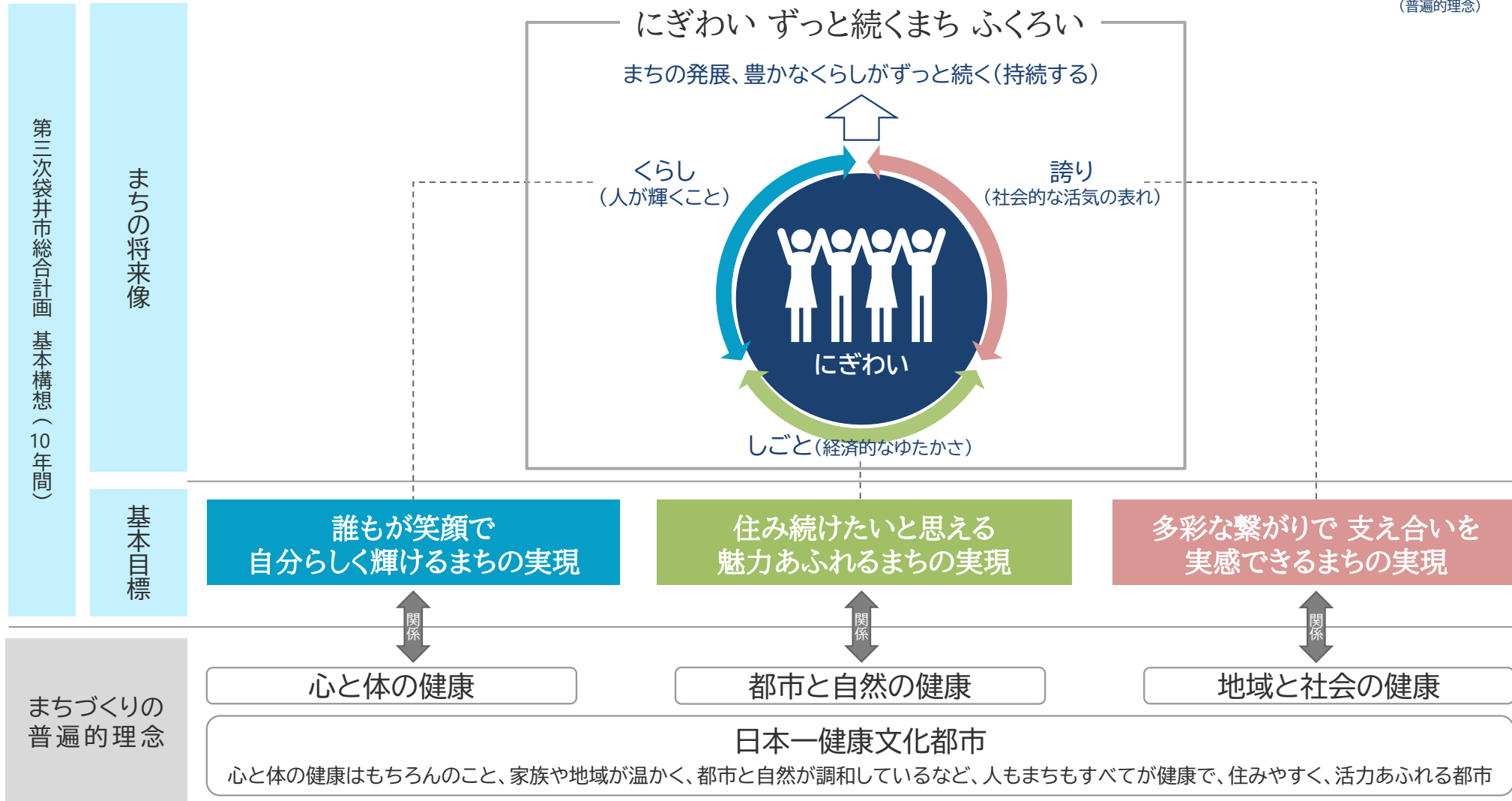
- **次世代教育の充実:**
未来を担う子どもたちが、明るい未来を切り拓くために、教育プログラムの充実や教育施設の設備などを通じて、質の高い教育を提供する。
- **成長分野への投資:**
新しい産業や技術、エネルギー分野の成長を支援して、産業構造の変化とイノベーションによる経済成長を促す。
- **にぎわい拠点等の整備:**
まちに新たな活気を吹き込むための拠点整備や企業・商業施設の誘致など、魅力的な土地利用を進める。





「まちの将来像」と「まちづくりの基本目標」の関係性

- 本市のまちづくりの普遍的理念である「日本一健康文化都市」の3つの健康観を踏まえた、「まちの将来像」と「まちづくりの基本目標」の関係性について、イメージ図で整理します。



- まちの将来像「にぎわい ずっと続くまち ふくろい」を実現するための3つの基本目標として、以下のとおり定めます。

まちの
将来像

にぎわい ずっと続くまち ふくろい

基本
構
想

まちづくり
の基本目標

誰もが笑顔で 自分らしく輝けるまちの実現

まちの「にぎわい」は、そこで暮らす人が輝き、理想の「暮らし」が実現されることで生み出されます。

このため私たちは、どんな世代、どんな背景を持つ市民でも、一人ひとりの多様な価値観や個性が尊重されるとともに、心身ともに健康で、自身の持つ夢や希望を叶えることができるまちの実現を目指して挑戦し続けます。

住み続けたいと思える 魅力あふれるまちの実現

都市インフラを活用した産業や交流などの経済的な「にぎわい」によって、人々の生活を支える「しごと」が成り立っています。

このため私たちは、都市機能や自然環境、産業のバランスを整えていくとともに、豊かな観光資源や文化・スポーツなどを起点とした多様な交流を通じた、活力あふれるまちの実現を目指して挑戦し続けます。

多彩な繋がりで 支え合いを 実感できるまちの実現

人やコミュニティが、このまちで繋がりを躍動することで、社会的な「にぎわい」が生まれ、この地域に対する「誇り」が育まれます。

このため私たちは、地域やテーマごとの様々なコミュニティ活動への参画や支援をすることで、繋がりと心のやすらぎが生まれ、防災や防犯などにも団結して取り組むことができる、安心・安全なまちの実現を目指して挑戦し続けます。

こども家庭

教育

健康福祉

子育て支援や教育、福祉サービス、健康促進、医療サービス等の充実 など

まちづくり
(都市・環境)

社会インフラ
(建設保全)

産業・経済

文化・
観光交流

スマートな都市と自然環境の調和、インフラ保全、経済の活力向上、文化観光資源の活用、交流人口の拡大 など

市民生活
(地域・暮らし)

危機管理
(防災)

各地区での特色ある地域づくりの推進や市民活動の支援、多文化共生、防災・減災・救急対策の強化 など

政策分野(案)

1.第3次総合計画 基本構想(素案)に対するご意見

- 1.総合計画審議会での意見
- 2.パブリックコメントの結果(途中経過)
- 3.庁内パブリックコメントの結果

2.第3次総合計画 基本構想(最終案)について

- 1.基本構想全体像、素案からの変化
- 2.まちの将来像
- 3.「にぎわい」「ずっと続く」について
- 4.まちづくりの基本目標

3.基本構想を踏まえた各政策分野の考え方

基本構想を踏まえた各政策分野の考え方 【1／3】

- 各政策分野ごとに、「にぎわいがずっと続くまち」とはどのようなことか、基本的な考え方を示しています。

誰もが笑顔で自分らしく輝けるまちの実現

こども
家庭

人口減少という厳しい局面に立ち向かうためには、若者・子育て世帯に選ばれるまちであり続けるとともに、地域のたからである子どもが健やかに成長するための環境を整備することが、まちの「にぎわい」を生み出すことに繋がります。
このため、保育所や放課後児童クラブなど子育て支援施設の整備など子育て世帯が生活しやすい環境を整えることが重要であり、加えて、保育士や支援員等の人材確保や労働環境の改善が求められます。
また、子ども医療費の無償化など、子育て世代の経済的負担を軽減するための各種支援制度の充実や相談窓口の設置など、子育て等の悩みに寄り添い、支援する体制を整備する必要があります。
この他、社会全体で労働人口が減少する中、特に女性が子育てに起因して社会で活躍する機会を失うことがないように、リモートワークの推進や働く女性のスキルアップ、創業・再就職への支援など、女性活躍の視点も含めた対応も重要です。

教育

次世代を担う子どもたちが明るい未来を実現することが、本市の「にぎわい」を持続・発展することに繋がります。
このため、ICT教育など効果的な学習環境や一人ひとりにあったカリキュラムの提供など質の高い学校教育はもちろん、アートやスポーツなど多様な分野に触れ、個々の才能を成長させる環境を整える必要があります。
また、本市の「にぎわい」が続くためには、教育を通じて、次世代が地域に誇りを持ち、地域における学びと経験から、コミュニティの一員として成長していくことが不可欠です。学校だけでなく地域で活動する人や団体と連携して、子どもたちに地域の特色を活かした実践的な学びの機会を提供することで、地域への愛着と責任感を育み、結果、将来にわたってまちの「にぎわい」を支える人材の育成に繋がると考えます。
このほか、教員の労働環境の改善や特別な支援を必要とする子どもたちへの適切なサポートも含め、すべての子どもが自分らしく学び、成長できる場を確保することが求められます。

健康
福祉

健康で活力のある市民が増えることで、地域社会全体が活気づき、持続的な「にぎわい」を生み出すことができます。
このため、疾病予防の普及啓発や、ワクチン接種率、健康診断・検診の受診率の向上などにより、病気の早期発見・早期治療を促し、市民の健康維持を図るとともに、市民が健康を意識し、日常的に健康増進に努められる環境作りが必要です。
また、高齢者をはじめとする幅広い世代が安心して暮らせる高齢者生活支援サービスの拡充や、地域で支え合う仕組みを促進するために、地域包括ケアシステムの構築などを積極的に推進する必要があります。
さらに、障がい者が地域で安心して生活し、自立できる環境づくりや多様な悩みに対応する各種相談支援など、心理的・経済的サポートを提供できる体制を整えることで、市民一人ひとりの笑顔あふれる生活に繋がると考えます。

基本構想を踏まえた各政策分野の考え方【2/3】

- 各政策分野ごとに、「にぎわいがずっと続くまち」とはどのようなことか、基本的な考え方を示しています。

住み続けたいと思える魅力あふれるまちの実現

まちづくり
(都市・環境)

人口減少局面において、まちの「にぎわい」を持続するためには、都市活力を創出するための新たな土地利用に加え、都市機能の集約とそれを支える公共交通ネットワークの整備、持続可能な環境づくりが重要です。

このため、商業、医療、教育、文化など重要な都市機能について、適切な土地利用を進めることでまちの利便性を高めるとともに、これらを効率的に結ぶ公共交通の利便性向上やライドシェアの導入など、交通ネットワークを充実させ、暮らしやすい都市を実現する必要があります。

また、環境面では、バイオマス発電や太陽光発電等再生可能エネルギーの利用拡大など、地域資源を活用した持続可能なエネルギー供給を目指すとともに、市民に対する脱プラスチックや省エネ生活の普及を促進し、環境負荷の低減を図ることで、温室効果ガス排出実質ゼロを目指すゼロカーボンシティを実現し、持続可能な地域を築いていく必要があります。

社会
インフラ
(建設保全)

道路、橋梁、水道、下水道などの公共施設が老朽化する中、**まちの「にぎわいがずっと続く」ためには、私たちの生活基盤となる社会インフラが良好な状態に保たれていることが重要**です。

このため、社会インフラの定期点検と適切なメンテナンスを実施するとともに、スマートシティ化を推進し、デジタル技術を活用したインフラ管理を行うことで、安全性と機能性を有した災害に強いまちを実現する必要があります。また、新規整備や更新に際しては、都市機能の集約や再配置を計画的に実施し、投資効果を最大化することが求められています。

この他、公園や海岸・河川環境の整備も行い、市民が自然と触れ合い、リラックスする場を提供するとともに、健康促進やコミュニティ活動に活用するなど、市民が安心して暮らせる環境を整えていく必要があります。

産業
・
経済

多様で活力ある産業経済の発展が、まちの「にぎわい」を持続・発展させるための原動力となります。

このため、地元企業や商店、農業従事者等を支援し、域内消費の活性化させることで、今ある地域の「稼ぐチカラ」を持続させる必要があります。加えて、新しい産業や技術、エネルギー分野への投資や先進的な企業の誘致などによって、産業構造の変化とイノベーションによる経済成長を促します。これにより、雇用の安定と若い世代の定住を促し、まちの活力の向上に繋がります。

また、農業振興においては、地域農産物のブランド化や販売促進などによる競争力の強化やデジタル技術などの導入により、農業の持続可能性を高めるとともに、茶畑や田園をはじめとした地方都市が誇る美しい風景を守っていく必要があります。

基本構想を踏まえた各政策分野の考え方【3/3】

- 各政策分野ごとに、「にぎわいがずっと続くまち」とはどのようなことか、基本的な考え方を示しています。

住み続けたいと思える魅力あふれるまちの実現

文化
・
観光
交流

まちの「にぎわい」を生み出すためには、本市の豊かな文化資源や自然環境、スポーツ施設などのポテンシャルを活かし、地域の魅力を最大限に引き出すとともに、人々がこのまちで繋がり、人口活力を向上させていくことが重要です。

このため、同笠海岸をはじめとした豊かな自然や地元の伝統文化、遠州三山など本市固有の歴史的建造物などを守りながら、それらを観光資源として活用するとともに、アートやスポーツなど多様な交流を通じて、市民や訪問者がともに楽しみ、学び、繋がる場所や機会を提供することにより、まち全体の魅力や活気を創出していく必要があります。

また、人口減少そのものを抑制することは困難であることから、国内外に本市の魅力を発信していくことで、本市の魅力に共感してくれる人々との交流を広げ、交流人口を増やしていくなど、経済的な活性化と社会的な繋がりを促進していく必要があります。

多彩な繋がりで支え合いを実感できるまちの実現

市民
生活
(地域・
くらし)

このまちで活動をしている市民やコミュニティなどが繋がることで、社会的な「にぎわい」が生まれ、それら多様な主体の支え合いが、地域やくらしをより良いものへと変えていきます。

このため、行政と企業、市民団体などが、興味を持ったテーマ等で繋がり、地域課題を解決するために互いに活かし合う官民共創の枠組みを構築し、社会課題を解決していく必要があります。

また、地域づくりの担い手不足解消などにも取り組みながら、地域の主体的な活動を支援し、交通安全や防犯活動、ごみ減量など、私たち自身の手によってより良い地域づくりを進めていく必要があります。

さらには、多文化共生など多様な背景を持つ市民が互いに尊重し合い、共に生活しやすい環境を整えることも重要です。異なる文化や価値観を認め合い、共に成長する社会の実現を目指します。

危機
管理
(防災)

市民一人ひとりが安全・安心に暮らすために災害対策などを充実させることは、まちの「にぎわい」を守っていくことに繋がります。

このため、激甚化・頻発化する災害に対する強固な対応力を備えることが重要であり、インフラ整備による対策には限界があることから、防災意識の向上と組織体制の強化が求められます。地域における自主防災隊の防災訓練や消防団をはじめ、市民一人ひとりの繋がりによる団結力を高め、災害時に円滑に対応できる体制を整えます。

この他、消防設備の拡充や救急対応力の向上を目指し、迅速かつ適切な救助活動が行える環境を整えるなど、災害に強く、安心して暮らせるまちを目指して、市民と行政が一丸となって、より安全で豊かな地域社会を築いていく必要があります。